明治三十三年二月廿五日發行（明治二十一年二月二十八日内務省許可）

婦人衛生雜誌

第百貳拾叅號

私立大日本婦人衛生會

婦人衞生雜誌

第百貳拾參號目次

講演

●諸人種つまさだめ……（一）　理學博士　坪井正五郎君

衞生叢談

◉空氣に就て　Dr. N. S.
◉乳兒と空氣……（十七）
◉乳兒の抱寢……（十八）
◉呼吸氣不足の害……（十九）
◉ペストの病狀……（二十）

宮庭御慶事

◉宮內省告示第二號……（二十一）

中外彙報

●結核免疫法●府の黑死病豫防費●有害物の檢查
●昨今兩年一月の傳染病●大日本私立衞生會建議と捕鼠考案募集●大學の參考品消毒●盲學生の歌
●生月と發育との關係●ペスト終滅●臺灣ペスト
●千葉縣實布的里の死亡●産婆女學雜誌の發行●鼠に就てのかず〱

食物調理法

●牛肉の卷ちん●牛肉の柚脯……（二十五）

養生訓

●肺病者の乳等十數件……（二十六）

大日本婦人衞生會記事

●一月新年會及寄附●二月例會日寄附●會員の種類變更●本會入會者……（二十七）

新潟支會記事

●新潟會員人名……（三十一）

山形支會記事

●山形支會發會式及會員姓名……（三十五）

其他會告

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講演

諸人種つまさだめ

（明治三十二年十一月本會例會に於て）

理學博士　坪井正五郎君述

佃速記事務員速記

私は只今御紹介下さいました坪井正五郎と申す者でございます、本會には餘り緣故の深い者でもないのでございますが、今日此席へ出まして、殊に殿下の前で御話することが出來ましたのは、誠に榮譽の事と深く悦んで居るのでございます、只今申す通り此會には緣が深くない、深くないのに何を話に出て來たと云ふ疑ひが起りませうが、是は今日はまだお見えになりませぬが、多分重な役員であらるゝ三浦幹事さんの御紹介を受けまして、此會に何か話をするやうにと云ふことでございましたが、私の專門と致して居る所の人類學、人間の學問と云ふものから、衞生學と云ふのは大分離れて居る、併し其事は豫て御承知の筈でありますのに、話をせよと仰せのでございましたのは、是迄衞生の專門の方の御話ばかりありますが故に、其間に何か違つた話があつた方か宜からうと云ふことから出たことゝ存じます、固より衞生に就てカレコレ御參考になる材料は持ッて居りませぬが、違つた事を御話するだけは出來る積りで此席へ出た次第でございます。

演題は彼處に掲げてありまする通り「諸人種つまさだめ」と云ふので、奇妙な題でありますが、世界中の人種が、妻を定め、或は婦人たるものが良人を定めるには、どういふ考を以て定めるか其事に就て御話する考へであります、其前に私が修めて居る人類

學と申しますのはどう云ふものであるか、其事をざつと申して置きたいと考へます、此學問は餘り廣く行はれて居りませぬ、普通教育の課程にも這入つて居らず、教科書も出來て居りませぬから、御話を致しましても御分りにくい事も或はありはしまいかと考へますからざつと性質を申して置きますが、人類の學問と云ふのでございますから名稱は能く分つて居る、即ち動物には動物學、植物には植物學と云ふ學問が立つて居る如くに人類學と云ふ、吾々人間を調べる學問がある、然らば人間の何を調べるか、身躰を調べるには解剖學もあり、心を調べるには心理學もある、種々樣々の學問があるのに、何を苦んで人類學と云ふ別の學問を拵へるかと云ふ疑ひも起りませうが、それは或一部のみを調査するに止つて居つて、人類と云ふ一かたまりになつて居るものではない、人類學の研究致します所を引くるめて言つて見ますと、之を三つに別けることが出來る、

第一は、凡そ人類と云ふものは何者であるか、而して人間は萬物の靈と申しますが、どふ云ふ所か萬物の靈たる點であるか、

第二は、現在の狀態、世界中にどう云ふ風に擴つて居るか、其躰格習慣の別はどんなものであるか、

第三は、人類の由來、如何にして人類が此世に現出したか、其人類が如何にして人種の別を生じたか、さう云ふやうな事を引くるめて、明かにする事を努むるのが人類學である、さうでありますから色々の事が其中には這入つて居る、故に此會なぞで人類學上の事を引出しても御參考になることは――強いて探せばないではありませぬが、人類を研究する目的でないから、適當な御話を選ぶに甚だ困りましたが、先づ何となしに、廣く人間の有樣に關する事を御話し度と云ふ考へで諸人類に亘ることゝし、それ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

から何か宜からうと色々考へまして、つまさだめが宜からうと思ひ付いて斯う云ふ題にした次第でございます。

一躰つまを定める、夫婦と云ふ者が存在して居るのは二つの事を含む、其一は何であるかと云ふと、異性の存在それから其二は性を異にして居る者が或條件の下に一所に生活する約束をする極く小さな、顯微鏡を以て見るやうな小さな動物になりますと云ふと、雌も雄もないのが有る、性の異つて居らないのに子を生むと云ふことはありさうもないように考へられるが、極く下等動物になりますと、雌も雄もなし一匹のものが割れて殖えると云ふ簡單なる動物がある、又雌雄があつて二つの動物が集つて子供が出來ると云ふのもある、又一匹の動物の躰に雌雄の性が備つて居るのもある、兩性を備へて居ると云ふのは蛔虫の如きものであります、さう云ふものでありますから雌雄があつて始めて子が生れるとばかりは言へない、油虫の如きは或場合には雌ひとりで子を生む、斯う云ふやうな動物を調べて見ると、凡て動物と云ふものに雌雄があると定まつたものではない斯の如く樣々のものがありますが、併しながら脊骨のある動物、魚であるとか鳥であるとか獸であるとか、斯う云ふやうな動物になれば、固より明かに雌雄の別はあります、けれども是は或季節に一緒になつて、其間に子が出來る、異性のものが寄つて子が生れるので有りますが、必しも夫婦の關係と云ふものがある譯ではない、鳥獸でありますると、或季節には一緒になつて居たと云ふとはありますが、或條件の下に夫婦は形つくると云ふやうになつたとはございませぬ○それから人間に一番近い所の類人猿、人に類して居るオラングウータン、即ち猩々と云つて上野の動物園に來て居るもの又、ゴリラ、チンパンジ

一、ギッボン是等の猿は雌雄か一定の時期に一緒になつて居るのみならず、其子供が生れますと、一家族——家はありませぬけれども、木の枝を寄せかけて、雨露を凌ぐやうな小屋を拵えて其處に居る、先づ一家族とも云ふべきものを形作る事が有る、其時分に雄は自分の一緒に居る雌に子供を養育させ、自分は外から來る敵を防いで、雌や兒を保護すると云ふやうなこともある、又或場合には雌の方が身躰も小さい、力も弱い所からして、雄の方が自分のする仕事を強ゐて雌させると云ふことがある、他の獸類の中、猫であるとか、犬であるとか云ふものに於ては一向見る所でないが、是等のものより類人猿は餘程進んだものであつて、雌の仕事が氣に入らないと食ひつくとか、引ッ掻くとかする、斯う云ふやうな事は腕力上已を得ないことであります、類人猿の爲る事は餘程人間に似て居る所がある、

それで人類であつても、極く野蠻未開の者がある、吾々開化した、人間から見れば實に奇妙なる感を抱かせる、今日でも南洋諸島豪斯多剌利亞とか、又近頃英國と戰爭の始つて居るトランスヴァール邊の舊來の土人であるとか、我國の北海道のアイヌ臺灣の蕃人と云ふやうな者は開けない人間です、野蠻人の中には實に此の類人猿を距ること餘り遠くないやうな種類であります、

今日能く知られて居る所では豪斯多剌利亞のクインスランドの土人が世界中で一番開けない人民の居る所であります、

是はクインスラントの土人の一家族の樣子を描いたのであります、(圖を示す)衣服と云ふものもなく裸體であります、立つて居りますのが男で、坐つて居りますのが女で、子に乳を呑ませて居る、家を拵えると云ふても極めて簡單なものであつて、木の枝を

寄せ集め其中へ這入つて居る、ホンの雨露を凌ぐだけで、衣服も無ければ、器と云ふやうな物もない、斯う云ふやうな生活をして居る、今開化した所の人が斯樣な風をしたならば迚も見られたものではないけれども、是れで慣れて居りますから見苦しいとも感じない、

斯う云ふ開けない所の國では夫婦など〻云ふ定めはない、獸類と同じやうなものだと思ふ人も往々ありますが實は決してさうではない、此社會に於ては、或處では一夫一婦、一人の男が一人の女を妻にする處があるし、或處は一人の男が多くの女を妻にする、或處では數人の男が數人の女を協有的に妻にする、一夫一婦、或は一夫多妻、又は多夫多婦とでも申しませうか、皆な幾らかの制限は附いて居る、さう云ふやうな有樣の處では、妻を選び、夫を定めると云ふやうな點はどうしてあるかと言ひますのに、一躰廣く動物に就て見ますのに、選ぶと云ふのは主に雌の方にある、雄の方は身躰も大きく、力も強くあるから、自分の考へ通りの事を仕やうとするので雄同士の間に競爭が起こる、そこで雌の方では何れの雄を近付けやうかと選擇をする、雌の方が選ぶ、彼のカウロギ杯が種々な音を出して鳴いて居りますのは何であるかと云ふと、爭つて雌を呼ぶので有る、雌は自分の好む聲を出す雄の方へ寄つて來る、或は鳥でも聲の好いのや羽の美しいのを雌が選ぶ、即ち虫や鳥の色が美しいとか聲が好いとか云ふのは皆雄であつて、雌の方は夫れを選ぶ方である、

さう云ふ風になつて居りますが、彼の野蠻國ではどうであるかと云ふと、矢張之に似て居て、男の方が女を選ぶと云ふよりは寧ろ女の方か男を選ぶので有る、鳥や虫の雄は聲や色で雌に選ばれるのでありますが野蠻人はどうであるか、さう云ふやうな優美な

考へがあるかと云ふことを疑ふ人が往々ありますが、それは必ずあるのでございます、虫や鳥や獸でさへ美を認める其上に位する野蠻人が此考へを持たぬ譯は無い、實際に於ても證明される、或は又斯う云ふ説がある、装飾と云ふものは衣服が足りてから後に起こるもので衣服もないのに装飾などゝ云ふものが出來るものでないと云ふ、併しこれは誤りである、衣服が無くても頭や頸や手に飾りをする事は幾らも有る又容貌躰格の上に於て美を認めると云ふ事も有るそれは標準は違ひますが美しいものを好むと云ふことは何所にもある、どう云ふ點を美しいと云ふことは國々樣々の事であります、歐羅巴人として好む所は日本人は好まないと云ふことがあるし、日本人の美しいと云ふものゝ、歐羅巴人は美しくないと云ふ點がある、美と云ふものゝ考へ方が違つて居る、美と云ふものゝ標準は人類普通では無い、併し何人種の間にでも其所で美と認めて居るものはある、道徳に付ても一言して置かなければ成りません、彼のエジプトと云ふ國は何千年と云ふ昔に於て大層開けた國で、社會制度が備つて居つたのであります、彼の國に於ては、兄と妹が結婚することを許してあつた、それから波斯では昔息子と母との結婚が行はれて居た、亞非利加の西海岸にもさう云ふ處がある、或は又一人の男が大勢の妻を持つて居る、さうすると、其男の死んだ時分には、息子があれば其息子が、親父さんの妻悉くを承け繼ぐ、併し或場所に於ては、自分を生んだ母親だけは別にすると云ふことであります、又阿非利加西部リベリヤ地方に住むクルーマン種族では一夫多妻が行はれて、自分が家を相續すると、父の妻を悉く引き續く、それから又一夫多妻と云ふのは人の知つたことでありますが、其反對の處がある、一人の婦人が多數の

男と一緒に住むと云ふ處があります、是は西藏にもありますしセーロンにもあります、又南洋のニユージーランド、其他のポリチシヤ諸島にも有ります一夫多妻とは丸で反對であります斯かる風俗の行はれて居る所では夫れを當然の事と考へて居る、結まり道德の標準は所々で一樣で無いのでございます凡そ所有權と云ふものがあつて、自分で物を持つて居ると云ふ場合には泥棒と云ふものが出來ぬが、所有權のない、誰の物でもないと云ふ所では泥棒と云ふものはない、是に由つても所々で道德の標準の等く無い事が知れる、

諸人種男女の關係を説くに當つては是等の事を意に止めて置かなければ成りません、

これよりどう云ふものを美と云ふかと云ふことを御話する積りであります、先づ濠斯多剌利亞の事から申しませう、此邊の者は色が黑く、墨い方を正しいと思つて居るから歐羅巴人の白い顏を見ると化物のやうに思ふ、是で妙な話があります、或處で土人の女と歐羅巴人の男との相の子が出來た、スルト其子の顏の色が薄いと云ふので、阿母さんが大層心配して、火を燃して其烟で色を黑くすることを努めた、吾々から見ると訝しな話でありますが、先方から見ると黑くない方が變なのである、此處では色が黑ければ黑い程美人と考へて居ります、又女子は男子の眼の形に殊に注意します、

それから又ニユージーランドでは男子は顏へ入墨をするとを盛にやつた、今では段々歐羅巴人が這入つて來て、其野蠻の風を止めさせたのであります、其前迄は面部に少しも隙のない位に入墨をしたのであります、日本などで入墨をすると云ふのは、針の先で墨を入れるのでありますが、ニユージーランドでは、固より針など丶云ふ物はないから、貝殼のかけ

を瘡に當て槌で扣いて傷を附けて、其傷に植物性の繪の具を擦り込んで置く、さう云ふ痛さを忍んで印しを附ける、印しを附ける爲めには髭が邪魔になるから皆な抜いて仕舞ふ、又此入墨と云ふのが單に裝飾と云ふばかりではない、歐羅巴人と取引などをするにも、歐羅巴人は此顔の入れ墨を證據として約束をするのであります、名を書くと云ふ事も出來ず、印形と云ふやうなものもないから、其顔に施して在る入墨の形を證書面に模寫して夫れを以て約束をする、固より自分で斯うしやうとか、あゝしやうと種く々に好んで、痛さを忍んでした入墨であるから銘々にどんな形と事ふ事を記憶して居る、此入墨の模様は又門札の代りにもなる、丁度家根の棟瓦と云ふやうな所に人の首を附ける、それに其家の主人の顔の入墨の模様を畫く、さうすると、是はどう云ふ顔をして居るから何誰の家と云ふことが分る、又知らぬ者が見れば主人の顔が想像される、入黒が印形の代りにもなれば門札の代りにもなる、併し本來の用は裝飾で是に依つて男が美男子と見られるので有る、吾々から見ると實に怖しいやうでありますが、ニユージーランドの婦人は斯う云ふ顔の男子を夫にするのであります、ニユージーランドでは斯う云ふ裝飾をするのが行はれて居つたのでありますが、今日では歐羅巴人の盡力で此變風は止んで仕舞つたのであります、又昔は「毛男に女房無し」と云ふ諺が有つた位でひげは抜き去つたものですが今では歐羅巴風が流行して來て婦人はひげの有る男子を好む樣に成りました、

それから又南洋のヒヂーと云ふ處であります、此處では男子の髭を貴ぶ風があつて、男に髭の少ないのは形がわるいと云つて美としない、髭が生へて居て、頭の後が幅廣く丸いのを美いとして居る、此所では

女が男を撰ぶので有る、男が腕力で無理に女を自分の所へ連れて行ても嫌と思へば女は逃げて來る、

それから矢張南洋のタヒンチでありますが、此處では、鼻がつぶれて低いのを美いとしてある、吾々の考へで見ると高い方が宜かりさうなものでありますか、低い程宜いとしてある、それでありますから子供の中にセッセと鼻を押つぶす、彼等が歐羅巴人の子供などを見ると、彼の兒の阿母さんは子供の育て方を知らない、鼻をつぶさないもんだからあんなに醜くなつた、可哀想なものだと言つて居る、さう云ふやうに此邊では鼻の低いのを美人として居るのであります。

それからマレイ諸島中のボルチオ、此ボルチオでは容貌はさう喧しくはない、容貌には重きを置かないが勇氣を貴ぶ、それを以て婦人が夫を撰ぶ標準にする、幾ら容貌は美でも往けない、成るべく人の首を多く持つて居るのを宜いとしてある、夫故に男子は首狩と云ふ事をする、何でも人の首を多く切り取つたのが宜いのである、ソロモンあたりもさう云ふ風が行はれて居りますが、何故首を斬るかと云ふと、男が妻を娶らうと云ふにも、十個も十五も二十も首を持つて居ると大變名譽なんです、亦婦人も成るべく首を多く持つて居る人を好むので、容貌などはやかましく言ひませぬ、さう云ふ風でありますから男子は爭つて首切をするのであります。

それから西隣のジャヴアでは、色の黄色いのを宜いとして居る、我々は色の白いのを美人とするのでありますが、此處では黄ろいのが宜い

スマトラでは矢張鼻の低いのを貴んで、子供の中から成るべく鼻の高くならないやうに押附けて居る、

マレイ地方では黄金色と稱して膚の黄なるを貴びます、

それから少し開けて來た所で、シャムではどう云ふのが美人であるかと云ふと、鼻が小さく、鼻の穴がひろがつて、口の大きな、唇の赤い、頬骨の高くなつて居るのが美人である、男子はひげの無いのを宜いとしてある夫故生へれば抜く斯う云ふやうに、南洋諸島の美人とは標準が違ふのであります、

それからコチンチャイナの美人はどうであるかと云ふと、顔の丸い高低のない、まんまるなのを美人としてある、此所では歐羅巴人は歯が犬の様に白く面色が芋の花の様だとて笑つて居ます、

ビルマでは額の幅が廣くて丸いのを宜いとして居るので子供の中から其癖の付く様にする、支那では御承知の通り足の小さいのを美女とする、支那には滿人と漢人との二種類がある、滿州人はさう云ふ風ぢやないが、漢人と申して居る所の支那人は足の小さい女を美人として居る、夫故に足を小さくする爲に七歳位の中から足の骨を曲げて布で巻いて大きくしないやうにして居る、日本などの美人と云ふのは、多く容貌の點を言つて居りますけれども、支那では足の小さいのを美人として居る、容貌に付いては支那では、顔の廣いのが宜い、さうして頬骨が高く、鼻の穴が廣く、耳の大きいのが宜い、是が支那の風であります、男子も支那では耳の大きいのを美として居る、

それからベンガル灣内のアンダマンと云ふ島であります、此島の夫婦の定めやうはどう云ふ事があるかと言ふに餘程おかしい、先づ普通に考へて見ると、夫婦は偕老の同穴と云つて、死んでも離れないものと云ふやうに吾々は考へて居る、所がアンダマン島ではさうでない、夫婦になつて子供が出來る、それに乳を飲ませて育てゝ、其子供が乳を飲んで居る間は眞の夫婦になつて居るけれども、それが乳を飲ま

ず一人で食物を得るやうになると、女の方が夫と見を捨てゝ出て往く、さうして外の男の妻になる、其所で又子供が出來る、其子供が乳を飲んで居る間は夫婦になつて居るけれども、獨りで食物を得るやうになると、また他に往く、斯う云ふ風で、是等は極く開けない所であります。

又セーロンでは或處の婦人が結婚をする、夫婦になると云ふには、先づ二週間ばかり一緒に居て、宜さそうならば契約をする、可けなければ止めて仕舞ふ、二週間試みて夫婦になると云ふやうな事が行はれて居る、

それから又セーロンにシンハリイスと云ふ種族があるが、此處にはむづかしい定めがある、それは髪が澤山あつて、孔雀の尾のやうに澤山あつて長さは膝に達し鼻の先の方が鳶の嘴の樣に少し曲つて居るのが宜いとしてある、脣は珊瑚の如く赤いのが宜い、首は成るべく太いのが宜い、胸は廣く、乳房は圓錐形に尖つて居るのが宜い腹部は細いのが宜いとしてあるのであります斯う條件を充たして居るのが美女なので有る、

又印度の南方の部分の種族には不思議な事が行はれて居ります、女子は十六歲か二十歲に於て夫人を持つ、男はどの位の年齡であるかと云へば五六歲であつて、名稱だけ夫人として置く、さうして他の男子が後見人と云ふやうなものになつて其女と一緒に住んで居る、其中に子が生れると五六歲位の子供を親父さんとする、本統の父では無いが假に父と仕て置くのである、

斯う云ふ奇妙な事が行はれる、さうして其幼い親父が成長すると、自分が他の男子の後見人のやうなものになつて、子が出來ると又それを幼い者の子にする、順送りにする斯う云ふ不思議な事が行はれて居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る、

印度のヒンヅク種族中には或季節に妻となるべき者、良人となるべきものとが寄り合ふ、結婚する季節があつて、或場所へ方々から男女が集つて來る、さうして六日の間一緒にゴタ〱住つて居る、さうして互に相談が定まると結婚をする、是は何時でも結婚すると云ふのでない、或季節に女と男が出て來て、妻を定め良人を求めると云ふ風が行はれて居る。

それから又亞刺比亞の一部には不思議な事が行はれて居つて、四分の三夫婦とも云ふべき結婚法がある、それはどう云ふ事であるかと云ふと、婦人が良人を持ても始終良人と一緒に居ると云ふ義務は持つて居らぬ、四分の一は家に居らぬ、三日間良人と一緒に居ると、四日目には自分の好きな所へ往つて、自分の嗜きな事をして構はない、完全な夫婦では無く四分の三の夫婦である、

それから韃靼地方では鼻の低いのが宜いとしてある

又カルヤツクと云ふ種族は結婚をするのに競馬をするのであります、或男が或娘と結婚したいと云ふことを其親に掛合ふ、さうするとそれでは競馬をしやうと云ふことになる、女子は馬に乘つて先に馳出す、お婿さんも馬に乘つて後から追蒐ける、それで女がつかまれば夫婦になる、若し婦人の方で其男の所に稼づかうと云ふ念があれば直ぐつかまつて仕舞ふ、其念がなければ中々つかまらない、若し捕まらなければ止めて仕舞ふ、此處では矢張髭のないのが宜いとしてあつて、少しでも生へると抜いて仕舞ふと云ふ風が行はれて居ります。鼻の先は上を向いて居るのが宜いのである、

それからサモエットと云ふ所ではどう云ふのが美人であるかと云ふと、頬が赤味を帶びて居つて、唇が赤く頭髪が眞黒で、眼が小さいのを美人としてあり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ます、

又亞弗利加の東の大きな島にマダカスカルと云ふ所がある、此處には亞細亞の馬來人地方の者に似た所の種族が住んで居ります、其種族の中には一種妙な風が行はれて居る、此所の女が夫を定めるにはどうするかと云ふと、一定の所に男を立たせて置いて他の者が一方から槍を投げる、これを巧くみに受取れは其女と男は夫婦になる、若しやりそこなつて受け損じたり怪我をしたり、或は危險だと思つて震えたり、逃出したりしては落第して仕舞ふ、さう云ふやうに此邊では勇氣を貴んで居る、

エジプトの南なるスダン地方でも勇氣のある男を貴んで、婦人が夫を定めると云ふには勇氣ある者を選ぶ、所が若し二人の候補者が出來て何方も同等のものであつて決し難い時には之を決する方法がある、一本の太い木を横たへて中央に女が腰を掛け其兩脇に男子が婦人にくツついて腰を掛ける、此場合に中央の女は兩臂に小刀を縛りつけ、臂で以て兩方の男の腿を一緒に突くのです、其時に痛さうな顏をしたり聲を出したりしては可けない、成るべく長く其痛いのを我慢して居た方が勝になつて其お婿さんになる、夫故に斯う云ふやうな痛さを堪えたと云ふやうな男が大層社會に歡迎されると云ふ傾きがある、又阿非利加の一地方の開けない所では女は成るべく肥つたのが宜いとしてある、夫故に常にミルクとバタを食べて肥る事を務める、男の方はさうでないが女の方は動くことが出來ないやうなゴロ〳〵したのが美としてある、

それから亞弗利加のニグロ間では鼻の低いのが宜い、色は黑い程宜いとしてある、

亞弗利加の東部にはカフアと云ふ種族が居りますが、此處では娘と物品を交換する、男が種々な品物

を持つて來て娘と交換しやうと云ふことになつて、親が之を承諾しても、娘が承知しなければ嫁ぐことをしない、其持つて來る物品が意に適ふて居らぬと、厭だと云つて止めて仕舞ふ、さう云ふやうに親が娘と品物と交換するやうな所でありますけれども娘は親の自由にならない、娘が男の有福なのと氣前の好いのとを認めなければ其者を夫としない、此所でも女が男を撰ぶのです、皮膚の色はチヨコレイト色が常でありますが黒の方が好まれる、黒味の薄い男が妻を娶る事を得なかつた實例があります、

それから亞弗利加の南の方にホッテントットと云ふ種族がある、此處では不思議なものを美として居る、それはどう云ふのかと云ふと、婦人の臀部が脂肪に富んで居て後方に突出て丁度棚を拵へた樣に成つて居る、此部の成る丈突き出たのを美とする、此地で勢力のある男は多數の女の中から美な者を選んで妻にする、選むのが中々妙です、それは大勢一列に立たせて、側から見て成るべく臀部の突出して居るのを自分の妻とする、

それからして北亞米利加の方へ往くと、男の美と云ふものは種々の條件を充たさなければならぬ、身躰の形容を歌にしたものがあります、それを譯して申して見ますと、

「丘の上の松のやうに高くて上品なのを好む」

それから、

「頭髮は黒い鳥の羽の如きを好む」

「眼は鷹の如く鋭く輝いて居るのを好む」

斯う云ふやうな種々なる條件があつて、是が缺けて居つては美男とは云へない、此條件が備つて居れば美男子と數へられるのであります。

それから矢張北亞米利加のチヌクと云ふ種族ではどう云ふ風であるかと言へば鼻筋が眞直に頭の頂上

まで通つて居るのが美人としてある、中々さう云ふのは自然にはない、故に子供の中に癖を附けると出來る、母親は誠に心配して、自分の子を美人にしたいから、始終注意して眞直に成る樣に子供の頭を板に挾んで癖を附ける、チヨツト怠ると眞直にならなくなつて仕舞ふ、成るべく頭の尖つたのを宜いとしてある、それは現今行はれて居るのであります、

それから又北亞米利加のクローインチヤンと云ふ部落では、非常に髮の長いのを貴ぶ風が行はれた、男子で最も長いのは一丈五寸と云ふ實例があります、此邊では頭髮の長短を美の標準として居ります。所が南亞米利加のパラグヱでは眉毛や睫毛を嫌つて皆な拔いて仕舞ふ、

それからブラジルでは鼻の低い方が宜いと云ふので鼻を潰す、南洋の方と同じやうに南亞米利加でも矢張鼻の低いのが宜いとしてあります、

以上申述べましたやうに、其國々に奇妙な美人があつて、其標準を異にして居ります、兎に角どんな者の方を好むと云ふ事は有る、

引くるめて御話申しますと、種々階級の度の違ひはありますけれども、夫婦の成り立ちに付いては詰り男の望む所と女の望む所と云ふものは三つの事よりほかあるまいと思ひます、先づ第一には異性相寄ると云ふことであります、第二には女は男の保護を受け男は女の内助を得んとを望む、男子は主として外の仕事をするのであるから、内に在つては妻の内助を得なければ成らぬ、實に一家を齊へて行くには野蠻未開國に在つては勞力上開化國に在つては精神上内助と云ふものが、最も肝要なことである、第三には幸福を增進する、異性相寄る、助け合ふと云ふことの他に夫婦が成り立ては幸福を增すと云ふ事がある、同情を表し合ふ、子供を設けると云ふのも幸

福であるが倘は他に社會上の幸福もあります、政治の上の幸福もある、學問上の幸福もある、技術上の幸福もある、夫婦の關係と云ふ中には此三つの條件が備つて居るに違ひない。

夫婦の關係と云ふものは深いものであつて、偕老同穴を契り、相扶け相保護して幸福を共にしなければならぬ、男女相撰ぶ標準は地方により開化の度により種々でありますが、開明國に在つては何事に付いても壯健と云ふ事が貴ばれるし又貴ばなければ成らぬ、即ちつま定めの標準として健康と云ふ事に重みを置く樣に成つて來ました、私の話を強いて本會の目的の方に引附ければ此處に來るのです、若し柔弱であつたならば迚も幸福を共にすることは出來ない、外で働くのでも内で助けるのでも健康が第一、又美貌の條件中にも丈夫らしいと云ふ事を欠かぬ樣に致度い、男女相撰ぶのに衞生上の注意と云ふ事を重んずる時には諸人種に於て種々の特徴が發達して來た樣に我國民は揃つて健全な者と成りませう、今日申上げた事は一向御參考になると云ふやうな事はありませぬが、先づ人種に從つて色々の事が有ると云ふだけを申したに過ぎない、此頃は恐れ多い事でありますが皇太子妃の御内定と云ふことも承つて居ります、又舊十月には出雲の國に神樣が集つて縁結びの評議をなさると云ふ說もあります、今日御話を致しました事は、場所がらには適しないかも知れませんが時に於ては適して居ると信じて居るのでございます、

衛生叢談

空氣

Dr. N. S.

空氣のこととに就ては、皆様大概御存知でない方はない位であらうと思ひますが我々の肉眼には見えないものでありますから兎角不潔の空氣も左程に感ぜられぬことでありますが傳染病流行などの節には衣服飲食より清潔法等は勿論緊心でありますが殊に一寸ツと素人の氣に付かぬことは空氣の事でありますサレバ誠に贅言ながら一言空氣の事に就て述べようと思ひますさて空氣は人の生活するに就ては、飲料よりも食物よりも一番大切なもので、昔し西洋の詩人の言に、人の生活は空氣を吸とが始まりで、之を廢めた時が、終りだと云とがあります。實に其通りのもので生て居間は一寸の間も空氣を絶といふとは出來ません。水とか食物とかも無論大切のものだが、食物なれば七日斷ても死にはしない、水なれば三日斷ても死ないといふ様な者で、必要と云ても多少猶豫があるが、空氣に限りては僅か五分でも十分でも、之を斷ば困難を來す、困難どころではない、些し長くなると生命を失ふと云程のもので空氣は非常に尊いものであります若し其分量が足りないとか又其性質が悪いとか申すとがあれば其時は大層人の衛生上に害のあるもので萬事に關係を以て居る必要品で御座いますから能く平常に其大切なる者といふとを心得て居りませんければ何用に付けても大きなる不幸を受るとに成行ます。

乳兒と空氣

空氣の性質とか地球上どの位擴ろがつて居るかと云

ふことなどは茲には申し述べません只世の中を見れば往々空氣の大切なることを知るか知らざるが折々過ちを生ずることがある例へば親が乳兒を懐て寢る時に小供の顔に着物を覆ふとか或は鼻も口も親の肌に密着せしめたり或は深く夜具の中に眠らせるなど是等はよろしくありません小供は未だ手を以て夜具着物を除け頭を持上ることも出來ませんから若し密に肌に懐き締め蒲團の下にムグらせる如きとかあれば十分に空氣を吸ふとは出きません又いぎたなき婦人などは小供に乳房を與へながら眠りこんでしまひまして口も鼻も塞がれて空氣の流通を断ち目覺めて見れば小供ははや事きれて居るなどと云ふ例しは世の中に幾らもあります是等は空氣の大切と云ふことを御承知ないからの様に思ひますそれゆへに子供を持ては誕生した時から直に空氣の流通を妨げぬやうに注意せねばならぬ赤坊を包むにも喉の下などは推さぬ様に鼻と口にはかゝらぬやうに心をつけ赤坊は暖き所から出たからとてソックリ頭から包み込其爲に十分に空氣を吸ふことが出きぬと云ふ様な事のないようにせねばなりません乳兒の鼻と口とは常によく掃除をしなければならぬ洗濯でもしたる「ハンカチーフ」か軟らかき白布を指の先きに巻き水に浸して時々口鼻の粘液を拭ひ又乳房を與ふる時も鼻と口とを塞がぬ様に用心しなければならぬ乳を飲み居る間は口で呼吸をすることが出きませんから鼻に注意することと勿論であります時に或は噎せたり苦しがつたりして甚だ困難不愉快を與ふることがありますからよく〳〵注意が緊要であります

乳兒抱寢

右の様なる害は皆乳兒を抱き寢するより起ることでありますから成るたけ別に床を設けて寢すがよろしい西洋では別にしますが日本では親か乳母が添乳し

て寢かし附けます夜乳を引かせるは力づくと思ふ様な習慣が行はれて決して一人りは寢かしませんがこれは太だ宜しくない風習であります或は小兒の顏を深く夜具の中へ押込み或は母親の顏と顏と相對して双方より呼出したる炭酸に富みたる空氣を吸入し甚しきは前にも申す様な睡中授乳の疎忽に由て窒死せしむるなどの害があります故に小兒は別に寢すとしまして何時間毎に乳を與へ何時間毎に寢床に入れると云ふ様にすれば最初は泣きむづかりても二日か三日を經ればチヤント習慣が定まりて後になれば毫も心配はありませんといふ事であります成丈けは實行を願升。

呼吸氣不足の害

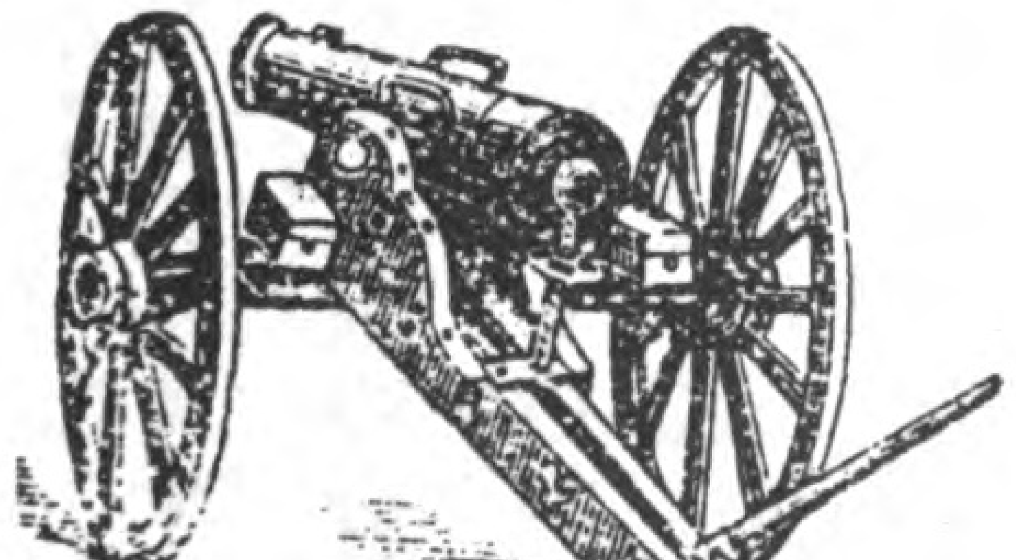
子供が少し大きくなりて自在に動くことが出きる樣うなれば自分で空氣の需用を妨げ危害を招く様なことが度々有ります夜具を顏から頭まで被て寒夜など風の來ない様に致したり又臆病なる兒童は夜分「オバケ」を怖て夜具を頭上に被りて顏をかくすなどは隨分少なからざる悪習慣にて睡眠中空氣の分量の不足なると其性質の不良なるとにて睡りも穩かならず恐ろしき夢に魘はれ悩み苦しみて目覺て後いたく疲勞を感ずるもの多し元來小供は生活の隆んなるもので目覺の時は機嫌もよく活潑なる筈の者だが此習慣の爲めに疲勞を覺え日を經る後には眞に其神經衰弱して頭痛腦病其他いろ〱の神經病を發し終身虛弱なる人となること多し子供の夜る寢ることに就ては母親となる所の皆様方が能く御注意がないと何んでも無いことより悪しき習慣をこしらへ年をとつては容易に改りませぬこれは空氣の大切なることを思はぬより起ることであります。怖いとか寒いとか云て夜具を被る其外に子供が遊戲する時に空氣の必要を忘れ先方の子供が蒲團をかぶせ或は之を仆して藁を掩ひ

枯草を被せ多勢集りて一人を埋込み上からおさへて下では動くことのならぬ様にし又は手の掌或は手拭着物の袖などを以て他童の息を窒め苦しがらせて樂しむが如き悪戯をなすことがあります其爲めに僅かの間に顔色も變り氣絶して大騒ぎとなるとなり薄弱なる小供なれば其爲めに色々の病氣を引出すともありまず渾て斯るとは空氣の必要を知りません故に起るとで親も知らず子供も識らず遂に健康を害する如き結果に至ります是等は婦人自躰の衛生ではありませんが子供を育てるといふは婦人第一の役目でありますから能く御承知になつて其子供にも能くおしえさとし空氣の要用を知らしてお遣りになるとは婦人方の御職分と思ひます。

ペストの病狀

前號雜誌ペストの病狀中ペストの重なる病狀は四十度の悪寒云々とあるは四十度の熱度の誤植尚其菌と其形狀中文意の足らぬ處は併せて補筆すること左の如し

ペストは其初め悪寒を來し熱度は屢々四十度若くは其以上に達することありペスト菌は其形蠶の繭の如く其病毒の尤も這入り易きは創面なりとす然るに其這入込みたる創口には痛みも腫れも起らされば氣付かざるものなれども平素股或は腋下等にある豆位の大さなる淋巴線が一晝夜の内に鷄卵か鵞鳥の卵位に大きうなり實に算すべからざる黴菌の數に至るものなり



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮廷御慶事

●宮内省告示第二號(官報號外)

今十一日　皇太子嘉仁親王殿下從一位勳一等公爵九條道孝第四女節子と結婚を約せらる

宮内大臣　子爵　田中光顯

明治三十三年二月十一日

右の告示に依り　皇太子殿下は益々御壯健に渡らせられ九條節子姫と御結婚を仰せ出だされたり畏くもなかなかに恐れ多きことながら姫君御名は節子從一位勳一等公爵九條道孝の第四女本年十七歳に渡らせ給ひ明治十七年六月二十五日の御誕生御學齡の頃より華族女學校に御入校遊ばされ學事の御進みもいと早く其御成績を承はるに何れも御優等ならさるはなく其御性質はいと温和に御憐みの御心深く閑雅靜淑の德を備へさせられ御身體もいと健やかに日々諸科の教師を御招ぎ御勉學遊ばされ猶日課の御餘暇には專ら御運動を執らせらるゝよしに承る此の御性行を承はるもの誰が千秋萬歳を歌はざらんや

本會は謹んで

皇太子殿下及節子姫の萬歳を祝し奉る

中外彙報

●結核免疫法　佛國巴里ハストール研究所留學生海軍々醫中監矢部辰三郎氏は兼て結核免疫に就て研究せられしが今回其免疫に關する論文を公にせられたり其主意はコッホのツベルクリン及各種の同血清療法の世人の喧傳するか如き効力なきことと及び同免疫現象の効力輕微なることを論じて曰く余はコッホ氏現象を來すべき一成分を分析し得たり即ち健康なる家鼠に此の物を注射し次て結核を接種せば此現象を來すを認め結核に免疫の存することを確證し得た

り」と論斷せるが果して此法が實際に適用し得らるに於ては人生の幸福限りなき事なり

◉府の黒死病豫防費　東京に於てペスト豫防に關して支出せし費額は左の如し

一金貳萬五千七百壹圓貳錢九厘

内府税支出

八千三百四拾貳圓六拾錢六厘　市部費

千貳百四圓五拾九錢壹厘　郡部費

内市税支出

壹萬六千百五拾參圓八拾錢貳厘　市費

◉有害物の檢査　去二日麹町署にては淺野警部主任となり警視廳より安井技手出張し管内の菓子商及び手遊商を取調べ衛生上有害と認むるものは直に發賣を差止めたりと

◉昨今兩年一月の傳染病　警視廳第二部の調査によるに昨今兩年の一月中市郡傳染病患者死亡統計の對照は左の如し

病名	本年	昨年
虎列刺	○	一人
赤痢	十三人	十四人
腸窒扶私	四十二人	九十九人
痘瘡	○	一人
猩紅熱	○	二人
實布的里亞	百六十九人	百六十人
合計	二百三十四人	二百七十六人

◉大日本私立衛生會の建議　同會にては評議員會の決議に依りペスト檢疫のため死亡したるものに手當金給與方を政府及び貴衆兩院へ建議せんとす

◉同鼠捕考案募集　其優等あるものゝ一等賞二百圓、二等百圓、三等五十圓、二月廿八日を〆切とす

◉大學の參考品消毒　東京帝國大學本部に參考品として備附けある金屏風三雙は殊に貴重の品なればとて同部より東京瓦斯消毒所に命じ目下瓦斯消毒中なりとのこと

◉盲學生の歌　靜岡縣掛川町の東海訓盲院内にある盲生文學會では此の間其の生徒に「窓」の題で歌を詠せし處其の中でも盲者の心の座ろに思ひ出されるの

は「花もなく月もなき身は鶯の鳴くより外に春もなきかな」（風外生）「咲き匂ふ花は見なくも鶯の鳴く音を聞けば春心地する」（心盲生）の二首なりしといふ

◉生月と發育の關係　或る學者の說なりとて某新聞の記す處によれば夏季に出產したる小兒は他の季節に生れたるものよりも丈高きを常とす又或る學者の說によれば九、十、十一、十二、一、二、月等に生れたる男兒は此他の月に生れたるものよりも矮し特に十一月に生れたるもの最も矮軀なり而して七月に生れたるもの最も長身なり女兒は十二、一、二、三、四、五月に生れたるもの矮く六月より十一月までに生れたるもの丈高く八月に生れたるものを第一とす又丁抹瑞典等の刀圭家が硏究したる所によれば小兒の生長は三月より八月までの間に著しく九月より二月までの間は生長極めて遲しこれは春夏の季節は食物も饒にして空氣も淸潔なるが爲なるやも知れずと

◉ペスト終滅　一時人心を驚倒せしめたるペストも豫防其效をや奏しけん神戶は舊臘二十三日大阪は本月十三日以來孰れも新患者を見ざるに至りたれば最早終熄に傾きたるものならん去れど元來ペストは極寒極暑には其勢ひを失ふものなれば此際の終熄は決して安心す可きにあらず晩春又は初夏の候は本病の猖獗を極むる時期なれば世人は決して安心す可からざるなり因に云ふ初發以來本月十三日迄の患者總數は大阪市は五十二人神戶市は十九人なりと

◉臺灣のペスト　臺灣總督府より去六日內務省に達

したる電報によれば本月二日嘉北縣ペスト新患者二人、死亡一人、同日臺南縣死亡一人にして一月一日よりの累計患者五十七人死亡四十三人なりと

●千葉縣實布的里の死亡　同縣に於いては昨年十二月一日より本年一月三十一日までの同病患者二百三十人にして内百十四人の死者を出せり即ち百分の四十九、五の死亡數を出したる割合なるが是等は何れも血清注射療法を充分に施し得ざりしが爲めなるべしと云ふ

●産婆學雜誌の發行

産婆の地位高まりし今日此種の雜誌發行は今日の急務と云ふべし發起者は楠田謙藏氏なり文章は平假名付にて理解易しく同氏の産婆科婦人科學雜誌と相待ちて共々有益の冊子なり本會へも其一部を寄送せられたり

●鼠に就てのかず〱

●鼠買上の話いろ〱　▲去月十五日より二十九日に至る十五日間に市内に於ける鼠買上げ總數は五万三千五百六十八頭此金二千六百七十八圓四十錢に無料差出したるもの一百十七頭合計五万三千六百八十五頭にて尤も多きは神田日本橋の兩區尤も少きは赤阪麻布の兩區なりしと

●鼠放逐法　鼠一疋を生捕り首輪に小鈴を附けて放ちやるべし他の鼠共は猫と思ひ逃げ去ると思ひ附いとおかし(右の畫繩ニツルセシハ畫工の誤)

●勿躰ない　神田區の或家の前に一疋の鼠捨てありしに職人躰の男其鼠を拾ひ「ヤア勿躰ない事をして置きやがる!

●或人鼠の巣を交番所に持ち行きしに巡査は巣の中

の小鼠五疋を親鼠一疋分に見積りたりといふも一寸とおかし

●鼠に逃げらる　浅草の交番所へ山中某と云へる者一疋の生ける鼠を鐵網に入れ持ち行きしに生きた鼠は受取らぬとソコで其場で殺すつもりで蓋を明けしにストンと逃げられた

●ハブと鼠　鼠の買ひ上げに就いて田舎の方へ鼠を買出しに行つたものがあるとの事なりしが何時か琉球でハブの滅亡を謀る爲めに一疋十錢宛で買ひ上げる事にした處が或者は竊に養つて子を生まするものがあり鼠買上此類に注意困難なりと云ふ

●赤痢増加　府下の赤痢は爾來日を追ふて益々増加する模様なるが一月去十八日迄の其筋の調査に依れは小石川八、神田赤坂牛込荏原各二、京橋芝本郷下谷浅草本所各一にして市部二十人郡部二人合計二十二人に達したりと

食物調理法

●牛肉の卷繊

牛肉を細かにたゝき鍋に胡麻油を少し入れて煮たて其中へ牛肉のたゝきたると人參午蒡蓮根など細に切りたるとを入れてよくかき廻して稍煮えたるを見計ひ醤油を加へて鹽梅しさて白豆腐を布巾にてしぼり水氣を去りたるを鍋の中へ入れてかき廻し一煮えするを待て黒胡麻のいりたるをふりかけて食すべし又前の如くしたるに豆腐を用ひず豆腐のからを加へるもよしこれを山うつぎなどいふ故に芹又は葱など少し加ふるもよし

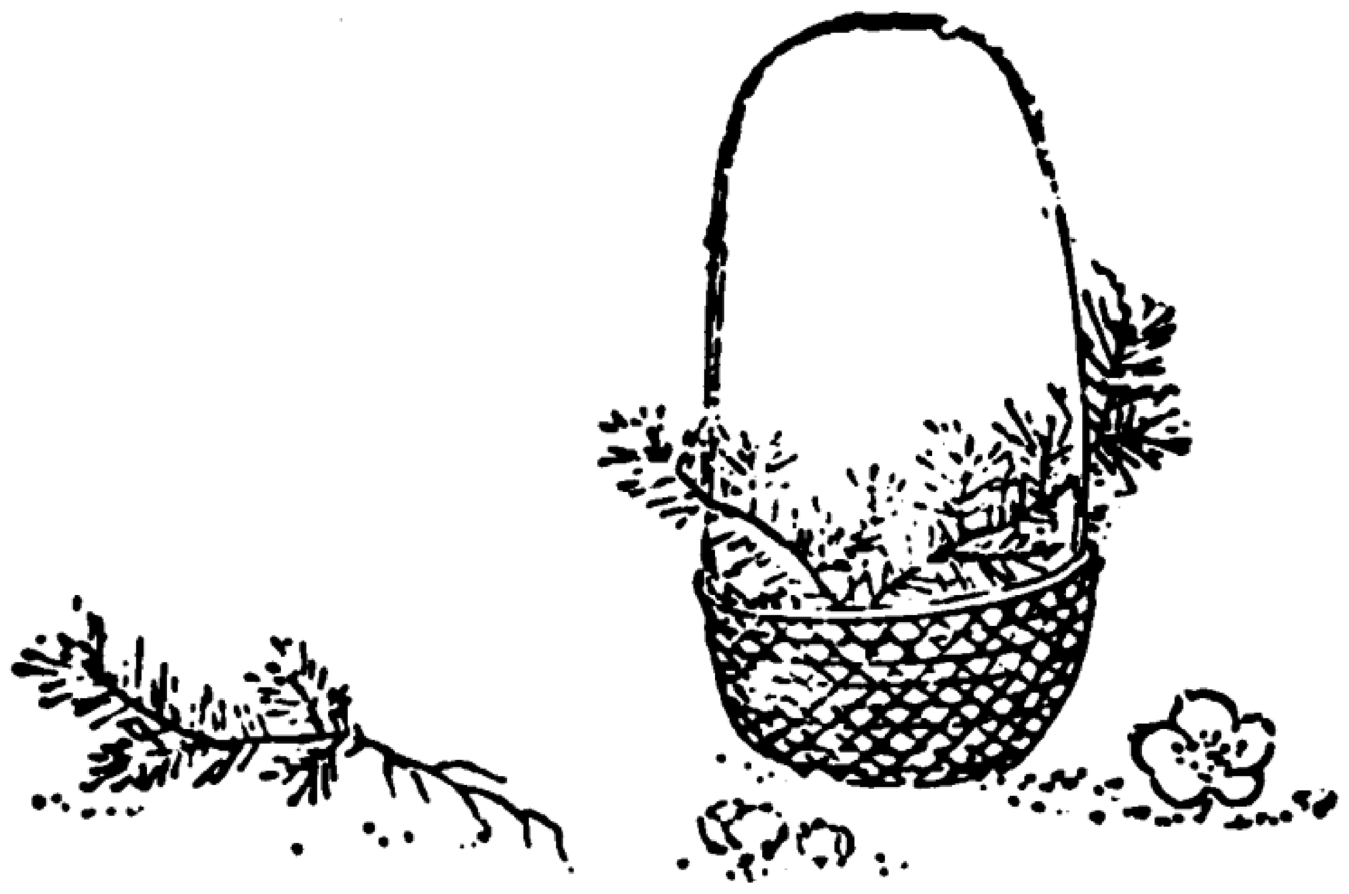
●牛肉柚脯

牛肉を極く細にたゝきこれに柚の皮計り擂りおろしたるを交ぜ味噌麥粉白砂糖雞卵を加へ水にて和かにしこれを（ブリキ）製の器か又瀬戸器の角なるに入

れて蒸すべし蒸し上りて器より出しよき程にきり相當なるあしらひを添へて用ふるときは風味よきものなり

分量は牛肉百目に味噌百目麥粉一合雞卵三つ柚三つ白砂糖一合計なり

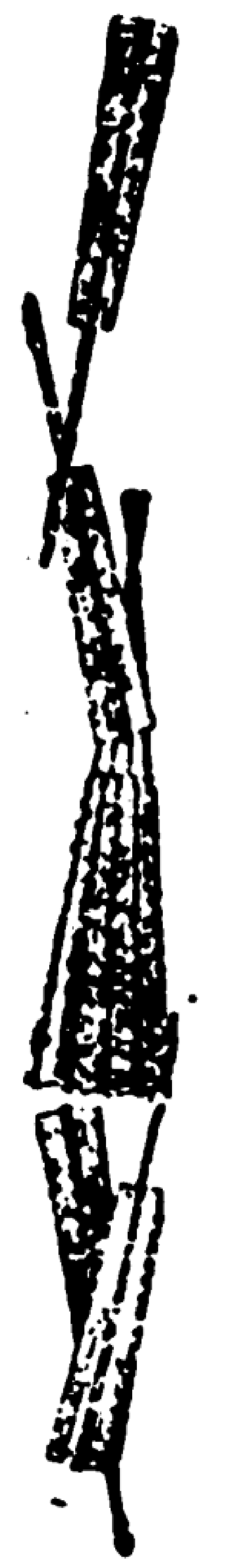
始め牛肉に柚を交ぜ置き麥粉を水にてとき其中へ雞卵のかきたてたると味噌及び砂糖を加へて交合し其中へ前の牛肉を入れて交てよし



養生訓

●肺病のある母親の乳は時によると其毒を含む●產婆に肺病あれば小兒に肺病を移すこと屢々あり●乳牛には人間と同じく肺病あり牛乳を飲む時は必ず煮立てゝ飲むこと●梅毒性の產婦が分娩したときに產婆自からが梅毒に傳染することあり●梅毒は接吻等より傳染す又病者の所用品は一切他人は用ゆべからず●總て看病人は成るたけ身躰を温くし滋養物を食し風を冒かぬ樣尤も緊要なり●眩暈の爲に卒倒せんとする人あり腦貧血を起すが爲なり是等の人は營養乏しく虛弱の人に多し平生滋養物を食し腦力の過勞を防ぐべし●食物の分量五

分四は體溫を發生し五分の一は身體の物質の保存に用立つ消化器の重なる食物の變化は澱粉質を唾液のために砂糖に變ず●澱粉質は米類に多量あり葛湯などに極く僅か唾液を入れても直に砂糖に變化す●滋養物　概して動物性の蛋白質は肉、牛乳、乾酪、鷄卵等植物性にも又多し其他動物の脂肪並に含水炭素澱粉砂糖の類水鹽類●蛋白質は血液幷に筋肉神經等の主なる成分となる●馬に蛋白質の少き枯れ草のみを食わせ置くときは力が弱く麥豆等の如き蛋白に富めるものを食せしむればからだも丈夫に又長く走る人も又之と少しも殊ならず蛋白質を取ること少きものは力も弱はく永き働らきに堪へぬものなり●可笑ひ恥かしいと云ふときに顏のあかくなるは毛細管に多く血の逼入るが爲めなり●如何なる小なる創も血の出るは毛細管の破れしなり●食物は人々により好き嫌ひあり他人によく消化しても嫌ひな物は消化器を害す事あり



大日本婦人衛生會記事

●一月新年會　一月廿一日午後一時より麹町區九段偕行社に於て本會の新年例會を開きたり此日や折惡しく朝來の降雪にて開會の頃には四面皚々として只雪の寸尺を增すのみなりしかば來會者も如何あらんと思ひの外先づ第一には濱尾副會長　高木穗積の兩幹事丹波評議員土方伯爵夫人にも參會せられ會員の熱心なる八十餘名の多きに至りたり警察醫長醫學士山根正次君には例年に因みに出席せられ捕鼠方法の注意に就き陸軍一等藥劑官恩田重信君には飲食物の成分に就て演説せられ右終りて例年の通福引の餘興を催せり晴天なりしならば多數の來會者あるべきを豫知し福引參百五十種を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

用意せり當日は伊部洋酒合名會社より改良地球印藥用葡萄酒五ダアースの寄附ありしを以て幸ひ福引中に加へ悉く來會者へ配與せしが散會せしは四時半頃なりき

◉新年福引費へ寄附

一金貳圓　會長　仁禮壽賀子
一金貳圓　副會長　濱尾作子

（以下姓名イロハ順）

一金壹圓　幹事　鳩山春子
一金貳圓　會員　長谷川蝶子
一金壹圓　評議員　西升子
一金壹圓　幹事　西静子
一金貳圓　會員　本間よし子
一金壹圓　幹事　高木かう子
一金壹圓　評議員　丹波さだ子
一金壹圓　幹事　松平芳子
一金壹圓　評議員　宮本樂子

合計拾五圓也

葡萄酒寄附

一ちきう印藥用葡萄酒　五ダアース

日本橋區馬喰町二丁目一番地
伊部洋酒合名會社

右新年會の當日本會へ寄附せらる葡萄酒問題は嘗て頗りにやかましく人々皆葡萄酒に信を置く者少き有様なりしが玆に恩田藥劑官は世間良好の葡萄酒なきを慨し先づ地球印藥用葡萄酒に大改良を加へ一々分拆により其原料を精撰し新に釀造せられしとの事なり其香味甘味は共に口に適ひ酔も又甚だつよからずサレバ此等は誠に安心して飲まるべき飲料なりと云ふべし余は恩田藥劑官を信してかくなん

◉二月例會　二月十日第二土曜日午後一時より芝區愛宕町四丁目櫻川學校樓上に於て本會の例會を開きたり同校は新築日尙淺く敎室の間取採光法等其宜しきを得賊に淸潔にして床上恰も拭ふか如く原校長の注意は知られけり當日は此頃歸朝せられたる岡田醫學士出演せらるゝ豫定なりしが遽かに差支の爲め胃腸病院副院長醫學士北村精造君代りて出演せられたり氏は胃病に就き食物消化作用上就き詳細なる演說せられ次に小兒科專門宮本仲君には嬰孩の衣服に就き日本服の衛生上より不完全なるとを說き終りに小兒服二三の改良雛形を示して演說せられ右終りて散會せしは四時過ぐる頃なりしが當日役員には仁禮會長、濱尾副會長幹事西靜子、仝高木かう子、仝松平芳子、評議員濱田拾子、仝緒方悅子、仝岡田とく子(以上イロハ順)等にして會員傍聽員を合せて百〇九人の多きに達せり

因に記す衣服の事は濱尾副會長の注意により開會前左の通役員中へ打合をなされしが何れも贊成せられたり

前略陳者衣服の儀に付ては是迄諸氏にも種々御苦心相成居候處今回　總裁宮殿下より御令旨の次第も有之猶一層注意致度就ては役員中申合せ以後花色すその衣服位にて可成目立不申樣仕度地方と違ひ一時に木綿服とも相成間敷故追々と御相談も仕候積りに御座候右得貴意度何卒御贊成被下候樣願上候

當日寄附

一風呂敷　十枚

一手拭　十筋

右會員牛山竹代子より當日出席の役員諸氏へ寄送せられたり

◉左の會員諸氏は本會發達助成の爲め下の如く會員の種類を變更せられたり

（イロハ順）

終身會員　舊特別會員　穗積歌子
特別會員　舊通常會員　德富靜子
終身會員　舊特別會員　鹿島いと子
終身會員　舊通常會員　山崎かつ子
特別會員　舊通常會員　齋藤春子

本會入會者報告

（自一月中旬至二月中旬）

○四方ゑい子紹介
●本鄕區四丁目四十三番地　通常會員　小山花子

○安永菊子紹介
●茨城縣眞壁郡下館町　通常會員　大日方ふみ子

○藤田直之助紹介
●牛込區新小川町一丁目五番地裁縫專門學校　學生　山岸すい子

○井ノ口多壽子紹介
●麻布區今井町四十一番地　通常會員　麻生富久子
●本鄕區曙町六番地　通常會員　松波好子

○山形北川さだ子紹介
●山形市旅籠町三百九十六番地　通常會員　武田粲子

○幹事高木かう子紹介
●赤坂區福吉町二番地　通常會員　玉木とよ子

○志村小恒子紹介
●日本橋區久松町二十九番地杉浦方　學生　深山すへ子
●仝所　學生　中村なか子

○
●京橋區佐柄木町二番地　通常會員　北村もと子
●小石川區下富坂町十八番地山井方　通常會員　東くめ子

○信洲工藤はま子紹介
●信州北安曇郡神城村　學生　柏原よし子
●信州北安曇郡南小谷村字池原　學生　田原しげ子

○幹事三浦敎子紹介
●神田區鍛冶町四番地　通常會員　天田鶴子

○長谷川蝶子紹介
●麹町區永田町二丁目七番地　通常會員　中濱千代子
●福岡縣遠賀郡八幡村製鉄所構內外國人內　通常會員　阿部敬子

○加藤錦子紹介
●横濱山手百一番　特別會員　ベル夫人

○後藤あさ子紹介
●神田區駿河台東洋內科醫院內　學生　山本まつ子
●仝所　學生　牧田はつ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○事務所へ申込
●岐阜市上加納協立療病院内　學生　高橋數子

○副會長濱尾作子紹介
●赤坂區新坂町　特別會員 男爵夫人　川口直子
●山口縣吉敷郡警部長官舎　通常會員　久保田ふじ子

○青木すゞ子紹介
●淺草區順賀町二番地　通常會員　山根藤江子
●淺草區南柳原町一丁目三番地　通常會員　中後增枝子

○鎌形きく子紹介
●第一醫院　學生　高橋千代子
●仝　學生　石橋はや子

○中島戲子紹介
●芝區宇田川横町五番地竹澤方　通常會員　齋藤ふく子

○事務所へ申込
●麻布區箪笥町百二十五番地　通常會員　土川たつ子
●帝國大學第一醫院小兒科　學生　山本かよ子

◎熊本秀島はつ子紹介
●熊本縣立病院内　學生　森本うた子
●仝　學生　今村まつ子
●仝　學生　川島みな子

◎和田愛子紹介
●牛込區若宮町三十九番地　學生　河村その子

○會員牧野ふみ子紹介
●大坂市東區南新町一丁目十六番邸　通常會員　山田たつ子

大日本婦人衛生會
新潟支會記事

新潟支會に於ては慈善會員の同支會に合同せられし以來多數の會員特に多數の特別會員を得るに至りしが今同會の主事中野悦子より報せられし會員の變更及現在會員等を左に掲ぐ

新潟支會々員

●學校町通　特別會員　撫養きさ子
●仝　特別會員　神尾つや子
●仝　特別會員　湯原じゆん子
●仝　特別會員　ミスブラオン

●醫學町　特別會員　石井きよ子
●仝　特別會員　横尾ふさ子
●仝　特別會員　谷みち子
●仝　特別會員　和田れん子
●上旭町　特別會員　稻津しん子
●仝　特別會員　松野なほ子
●仝　特別會員　北條きく子
●仝　特別會員　小紫きく子
●仝　特別會員　安原なみ子
●仝　特別會員　中野ゑつ子
●仝　特別會員　保倉せい子
●仝　特別會員　沼野昌江子
●仝　特別會員　大桃せん子
●仝　特別會員　水野とら子
●仝　特別會員　稻田きく子
●仝　特別會員　阪本いち子
●仝　特別會員　森りく子
●仝　特別會員　高橋なみ子
●番所通　特別會員　井原きよ子
●仝　特別會員　濱田たか子
●仝　特別會員　加藤孝子
●仝　特別會員　土田とめじ子
●寄居町　特別會員　辺見きん子
●仝　特別會員　高橋たゞ子
●赤十字養成所　特別會員　宇佐美きち子

●赤十字養成所　特別會員　星野よし子
●西堀通　特別會員　長谷川やす子
●仝　特別會員　長谷川じゆん子
●仝　特別會員　中村きん子
●仝　特別會員　高橋貞子
●大畑通　特三會員　阪口あさ子
●仝　特別會員　吉田きくの子
●仝　特別會員　吉井さく子
●仝　特別會員　金井染子
●仝　特別會員　木名瀬かつ子
●仝　特別會員　岩瀬きん子
●古町通　特別會員　荒川てい子
●仝　特別會員　安宅ふじ子
●仝　特別會員　小出やい子
●仝　特別會員　山崎いき子
●本町通　特別會員　田代てふ子
●仝　特別會員　中村しげ子
●仝　特別會員　佐藤みち子
●大川前通　特別會員　鍵富かう子
●仝　特別會員　鍵富とき子
●仝　特別會員　若杉きく子
●仝　特別會員　竹山れつ子
●仝　特別會員　鈴木とめ子
●仝　特別會員　小山せい子
●礎町通　特別會員　濱みね子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●東堀通	特別會員	齋藤かう子
●學校町	通常會員	小室房榮子
●仝	通常會員	岡田しげ子
●仝	通常會員	橋本げん子
●仝	通常會員	岩永ひさ子
●仝	通常會員	及川千代子
●仝	通常會員	大越とよ子
●仝	通常會員	藤田はな子
●仝	通常會員	中野けい子
●仝	通常會員	伊藤玉子
●仝	通常會員	渡邊千代子
●仝	通常會員	小塚もと子
●醫學町	通常會員	田村みち子
●仝	通常會員	佐竹わい子
●仝	通常會員	富澤たい子
●上旭町	通常會員	高田せん子
●仝	通常會員	秋月耕野子
●仝	通常會員	町田こと子
●仝	通常會員	宮こう子
●仝	通常會員	小島こま子
●仝	通常會員	都築すが子
●仝	通常會員	今井すみ子
●仝	通常會員	長野むら子
●仝	通常會員	吉村きよ子
●仝	通常會員	岩淵せい子
●仝	通常會員	河上ふさ子
●仝	通常會員	青木みせ子
●仝	通常會員	阪口せい子
●仝	通常會員	片桐つぐ子
●仝	通常會員	小串ふじ子
●下旭町	通常會員	木村ぎん子
●仝	通常會員	吉田きよ子
●仝	通常會員	小薮貞子
●營所通	通常會員	勝間田とめ子
●仝	通常會員	金子きい子
●仝	通常會員	梅木しづ子
●仝	通常會員	小村あき子
●仝	通常會員	清宮たか子
●仝	通常會員	大和田かつ子
●仝	通常會員	阿部きく子
●東仲通	通常會員	廣瀬春野子
●仝	通常會員	吉井くみ子
●仝	通常會員	鈴木きよ子
●仝	通常會員	小川むつ子
●仝	通常會員	相川いち子
●仝	通常會員	内田さと子
●仝（赤十字養成所）	通常會員	高久きん子
●西堀通	通常會員	原みほ子
●仝	通常會員	石髙いし子
●仝	通常會員	長井さと子

仝　通常會員　石井しま子
仝　通常會員　工藤せい子
仝　通常會員　清水とよ子
仝　通常會員　齋藤玉子
仝　通常會員　羽田かね子
仝　通常會員　小林きち子
仝　通常會員　多賀ろく子
古町通　通常會員　石崎みち子
仝　通常會員　小熊花子
仝　通常會員　會津やす子
仝　通常會員　大井榮野子
仝　通常會員　嶋本とき子
仝　通常會員　藤井れい子
仝　通常會員　樋口つや子
仝　通常會員　佐藤しん子
本町通　通常會員　白勢花子
仝　通常會員　中谷つる子
仝　通常會員　田邊りん子
仝　通常會員　大橋とし子
仝　通常會員　石高てい子
仝　通常會員　大塚ます子
仝　通常會員　久須美ひで子
仝　通常會員　能勢ます子
上大川前通　通常會員　鍵富いつ子
仝　通常會員　江部貞子

仝　通常會員　中山とう子
仝　通常會員　青山つね子
仝　通常會員　小川とり子
仝　通常會員　松浦とう子
仝　通常會員　松浦ひさ子
仝　通常會員　横山かう子
仝　通常會員　富岡つわ子
仝　通常會員　小澤ぬい子
仝　通常會員　山崎しげ子
仝　通常會員　倉田きく子
仝　通常會員　齋藤きい子
礎町　通常會員　南むね子
仝　通常會員　清水くり子
仝　通常會員　木下てつ子
大畑通　通常會員　吉井とら子
仝　通常會員　行形かつ子
寄居町　通常會員　渡邊きん子
仝　通常會員　樋口いく子
仝　通常會員　日野すま子
南濱通　通常會員　丹羽みす子
住吉町　通常會員　清水てい子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生會

山形支會記事

山形支會發會式

今回本會の支會なる山形支會は設立せられたり今其順序を略記せんに去月二十八日山形市の會員なる千葉てる子より支會設立の事に就き發起人講師及入會者二十餘名を添へ本會へ交渉せられたり講師は本會新潟支會の爲め其盡力淺からざりし醫學士淺田决君にして發起人諸氏は勿論ながら同氏の斡旋亦多きに居るといふ同支會發起人は幹事を兼任のよにて左の如しといふ

山形支會設立發起人總代

本會々員　沖野りう子

仝　國井よしを子

仝　北川さだ子

仝　千葉てる子

右書狀の着するや同日又端書は到來せり成るべく二月第一日曜日に發會式を開きたしとの事にて至急承認を求むとの書狀なりしをもて本會に於ては早速其規約手續等を了し承認の旨を報じ本會々長は遙に祝辭を送られたり此頃は積雪の爲め滊車の不通の事も屢々なりしかば本會の承認狀は發會式に間に合ふ哉と懸念せしが開會一日前に到着せりとの郵書に接したりき發起人諸氏をはじめ同地の會員一同は熱心に盡力せらるゝとゝて郵書毎に入會者は增加するに至れり誠に諸氏の勞は謝するに堪へざる處なり願くばます／＼奮ふて國家のため婦人衛生の爲めに盡瘁せられんことを

同支會創立事務所は山形市香澄町千葉てる子方に置かれしが發會式以后は山形市檜物町淺田决方に置かれしといふ

◉山形支會發會式當日の景況

二月四日の日曜をトし私立大日本婦人衞生會山形支會發會式を同市高等女學校内に開く

此日空いとよく晴れ渡りてともに發會をことほくかとそ覺えし

來會者七十九名午後十一時半を報し席定まるにや濟生館長醫學士淺田决君本會々長より寄せられたる祝辭及び發會を祝との電文を朗讀せられ引續き會員の報告及「衞生之必要」てふことにて講演せられき次は醫學士中原貞衞君救急法につき次は嘗て本會の爲め盡力せられたる醫學士川上雅量君には月經時の攝生に付ていとも有益なる講話ありて午后三時散會を告けしがいとも盛なる發會式なしりと幹事千葉てる子より報じ越されたり

本會々長祝辭

抑もく衞生の普及發達は國家富强の基にして世運進歩の根源なり特に婦人衞生思想の發達は直接個人に影響する所甚た廣く共爲すへきこと極めて多し小は以て人生の禍福より大は以て國運の消長に關す斯道の經營豈忽がせにすべけんやこたび山形市に於ける本會々員の諸氏は此に大に見る所あり私立大日本婦人衞生會山形支會を設立し本日發會式の盛典を擧げらるゝを聞く嗚呼盛なる哉是れ蓋し社會進歩に伴ふ衞生思想發達の結果と云ふと雖も亦會員諸氏が熱誠なる盡瘁に由るにあらずんば寧ぞ能く此盛擧を來すことを得んや只夫前途悠遠事業浩瀚其責任輕しとなさず希くは益々奮ふて協心戮力徐ろに後日の大成を期せられんことを遙かに一言を寄せ謹て祝意を表す

明治三十三年二月四日

私立大日本婦人衞生會會長
子爵夫人　仁禮壽賀

祝電

〇同支會發會式當日本會は左の祝電を發したり

ハツクワイシキヲシユクス
ホンクワイ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

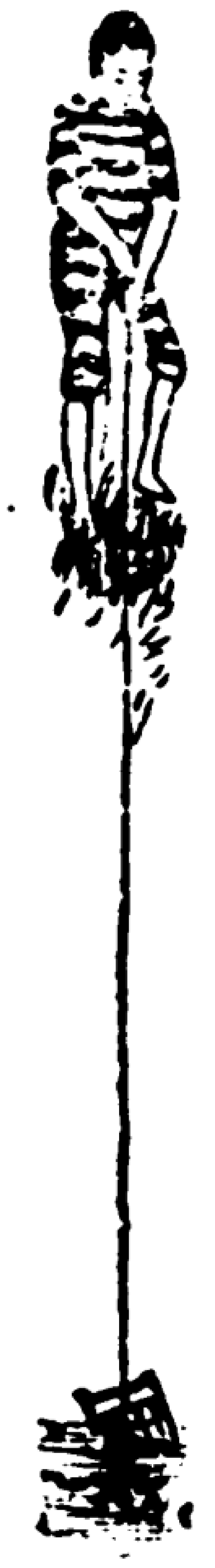
山形支會入會者

（自一月以降至二月中旬）

●山形市新築二五九　通常會員　川上きん子
●仝　新築西通　通常會員　溝淵こま子
●仝　通常會員　山田すい子
●仝　香澄町　通常會員　黒柳きぬ子
●日本赤十字支部看護婦寄宿舍　通常會員　髙橋たけよ子
●仝　學生　吉川いと子
●仝　學生　白田みを子
●仝　學生　小野まさ子
●仝　學生　佐藤なほよ子
●仝　學生　相馬さだ子
●仝　學生　丹とみ子
●仝　學生　中村さが子
●仝　學生　阿部かね子
●仝　學生　諏訪みよゑ子
●仝　學生　鈴木むめ子
●仝　學生　沼澤すぎ子
●仝　學生　眞木みどり子
●仝　學生　石黒もと子
●仝　學生　佐々木としゑ子
●仝　學生　末松とめよ子
●山形香澄町字木ノ實小路　學生　池田ちよめ子

●仝　旅籠町縣廳脇　通常會員　中原きゑ子
●山形日本赤十字社山形支部寄宿舍　學生　岩崎こと子
●仝　學生　中村やの子
●山形市旅籠町新築　通常會員　關根たか子
●仝　二百二十五番地　通常會員　關原龜爲子
●仝　新築西區三百五十番地　通常會員　菅井久子
●仝　二百六十七番地　通常會員　西野きぬ子
●仝　二百七十八番地古川昭方　通常會員　沼宮內たみ子
●仝　旅籠町三百四十番地　青木周厳方　通常會員　時岡くめ子
●仝　六日町百九十四番地　加藤忠治方　通常會員　加藤やす子
●仝　長源寺町照井方　通常會員　佐藤ふみ子
●仝　通常會員　佐藤やよ子
●仝　通常會員　佐藤とひ子
●仝　香澄町八幡石五十七番地　學生　森川こう子
●仝　新築西通　通常會員　葛たみ子
●仝　通常會員　小田切とわ子
●仝　七日町　通常會員　田中蘭末子
●仝　通常會員　武田うめ子
●仝　濟生館　學生　中村らく子
●仝　學生　藤山みゑ子
●仝　學生　松田りつ子
●仝香町横町口字木ノ實小路十九　通常會員　大森まつ子
從來の會員　淺田とみ子
仝　武田さん子

仝　後藤ます子
發起人幹事　千葉てる子
仝　國井よしを子
仝　北川さだ子
仝　沖野りう子



轉居

●麹町飯田町六丁目仁壽病院内へ　塚本靜子
●芝區汐留鐵道官舍へ　吉野仲子
●日本橋區蛎殼町一ノ六十二へ　伊東雪子
●神田區西紅梅町彌生看護婦會へ　稻葉千代子
●京橋區長崎町二ノ五小谷方へ　關藤ゝ子
●麻布區本村町百五十三へ　立川貞子
●肥前國佐世保赤崎面暇數揚八三四へ　石田たけ子
●甲府市傳染病院へ　武藤常子
●麻布區東鳥居坂町八田中綱常方へ　内山訓子
●神田區南乘物町一へ　佐藤蒼生子
●神田區鍋町二十二萩野喜助方へ　杉浦千か子
●麹町區元園町一ノ十六へ　上原豐子
●小石川區小日向臺町二ノ十六へ　渡邊なつ子
●神奈川縣三浦郡豐島村中里七十へ　中溝辰子
●廣島市竹屋町百八六十淺海病院内へ　小早川春子
●牛込區原町二ノ二十四番地へ　緒方芳子
●牛込區山伏町三十六番地へ　石栗させ子
●麹町區下六番町八番地へ　吳琴子
●芝區金杉濱町七十三番地六號へ　津田たま子
●讃岐國多度郡鮮岡村大字中村六十五へ　志岐久子

●愛媛縣松山市大字辨天町日ノ一番戸口羽改メ　矢能以滿子
●麹町區飯田町六丁目二十番地へ　松井正子
●神田區南甲賀町八番地井田伊三郎方へ　清洲さみ子

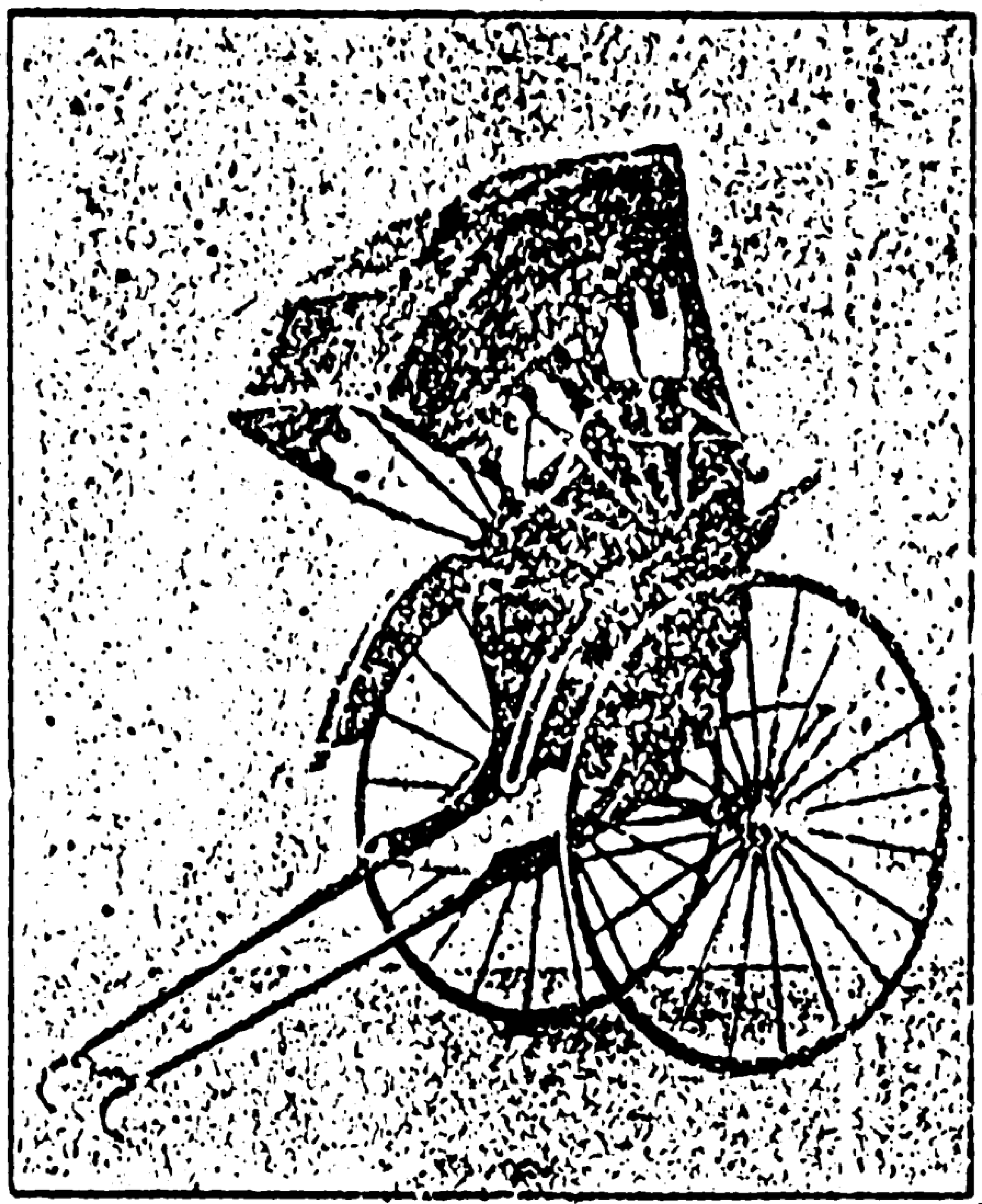
●交換寄送雜誌　（一月分）
（イロハ順）

●日本赤十字　第八十一號　東京日本赤十字發行所
●日本婦人　號　東京帝國婦人協會
●統計學雜誌　第百六十五號　東京統計學社
●統計集誌　第二百二十六號　東京統計協會
●體　育　第七十五號　東京日本體育會
●大日本婦人教育會雜誌　第百三十號　東京大日本婦人教育會
●大日本私立衛生會雜誌　第二百號　東京大日本私立衛生會
●通俗衛生　第十八號　大坂私立衛生會
●運動界　第四卷第一號　東京運動會發行所
●藥學雜誌　第二百十五號　東京日本藥學會
●藥石新報　第三百四十三號　東京日本藥石新報社
●團團珍聞　第千二百五十二號　東京珍聞館
●婦人新報　第三十三號　東京婦人矯風會
●國家醫學會雜誌　第百五十三號　東京國家醫學會
●工業雜誌　第百八十七號　東京工業雜誌社
●越佐教育雜誌　第八十九號　新潟越佐教育雜誌社
●衛生寶鑑　第四十號　愛知縣滋善堂
●埼玉衛生雜誌　第百七十三號　埼玉大日本私立衛生會埼玉支部
●產婆學雜誌　第一號　東京日本產婆學協會
●產科婦人科學雜誌　第二卷第五冊　東京日本產科婦人學會
●教育實驗界　第五卷第二號　東京育成會
●彰善會誌　第二十三號　東京彰善會本部
●淑　女　第二卷第一號　東京紫鸞社
●女學講義　第二回第二十七卷　東京大日本女學會
●廣島衛生醫事月報　第十三號　廣島衛生醫事報社

農商務省貿易品陳列館及び上野公園
商品陳列館に上等人力車出品有之候

保險附人力車大販賣廣告

弊店儀従来人力車製造販賣罷在候處大方諸彦の御引立を蒙り日に増し盛大に相成候段厚奉深謝候弊店製造の人力車は車躰構造の堅牢なることと形状の格好よきことと殊に車の出方至て軽くして挽子の勞力を省き且貴様方のお乗好きことと等は已に世人の定論も有之候猶今後益々大勉強を以て製造販賣仕候間何卒陸續御用被仰付度伏て奉希候謹言



漆細工は本邦特有の技術に有之候へは益々改良進歩の道を謀り益々邦人の技能を發揮せさるへからざることに御座候然るに當業者多くは目前の利を計り粗造品を製出致し候ため終に内外人の不信を來し我が特技たる斯業め今や振はざるに至り候は實に慨嘆の至りに堪えす候小生大に感ずる所有之作不及徐々挽回の策を講せんことを自任仕り以後器物其他塗物一式極堅牢に仕揚げ御注文に可應候間御用向の節は何品に不係御一報被成下候はゝ早速參堂可仕候頓首

保險附人力車製造販賣店

東京本郷春木町二丁目五十六番地

伊東竹三郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ちきう印藥用葡萄酒

本品は諸君も已に御承知の通り甘味と云ひ風味と云ひ質に言ふに言はれぬ語るに語られぬ一種の味があります兎に角紳士淑女の御飲料御滋養として御用ひになりますには先づ本品に越えるものは恐くは万國に御座えますまい今回は特に改良して試驗濟の封緘を一壜毎に貼付して發賣致し升から何卒層一層の御愛顧あらんことを切に希望致升

試驗濟封緘付賣捌所は全國到る所にあり

發賣元東京

伊部洋酒合名會社

●齒科診察時間●

午前九時ヨリ午後五時迄

東京日本橋區本町二丁目

齒科醫 高橋孝子

齒科醫 高橋虎一

傳染病に非さるも病人ある家は消毒必用なり産前産後轉宅等凡そ不幸ありし居室に對して**消毒**を怠る時は不測の危難を家屋に遺留す故に春夏秋冬傳染病の有無に不拘未發的豫防法に重きを置く

外來部は消毒料即答
巡回部は見積を前陳

東京瓦斯消毒所

電話浪花一七〇一

本部 淺草松葉町八十八番地

私立大日本婦人衞生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す

第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く
會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す
役員の任期は一ヶ年とす

第三條 本支會は毎月一回(第二日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす

第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通會費を添へ會員に紹介を依頼すべし
本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし

第五條 本會々費は會計幹事に納むべし 但し六ヶ月又は一ヶ年分
新に入會のものは其月より六ヶ月又は十二ヶ月迄の分を一時に納むべし

第六條 服装は精誠質素なるを要す
上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

私立大日本婦人衞生會
山形支會
事務所山形市檜物町淺田方

●新潟支會規則は次號に掲載すべし

●私立大日本婦人衛生會規則摘要

一本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

一會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

一入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には會員證を交付す

一會員を分ちて終身特別及通常の三種とす

一終身會員は一時に金拾圓以上特別會員は一ヶ月金貳拾錢以上通常會員は一ヶ月金拾錢を納むるものとし學生其他事故ある者は減額して金七錢を納むるものとす

一男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特別賛成員たることを望みたる者は役員會協議に依り無會費とすることあるべし

一會員は本會に於て毎月發行する雜誌を無料にて受ることを得退會せんとする者は會員證を添へ本會事務所に報知すべし死亡する時は親戚知友より通知すべし

一集會は例會總會及評議會員とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午后一時より開會するものとす

一但毎會學識經驗ある者に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす

一會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむることを得

一講議演說等は男子の傍聽を禁す但賛成員若くは會員緣故ある男子は此限にあらずと雖も賛成員の外は本會の都合に由り臨時謝絕することあるべし

●支　會

一地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出づべし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尙詳細は本會事務所へ承合すべし

注　意

一會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便取扱所(東京牛込郵便局)宛振出あるべし

一會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に郵券二錢を添へらるべし

但止むを得ざる場合には郵券を代用するも妨げなしと云へども總て一割增とす

一轉居せられたるときは其旨直ちに本會事務所宛通せらるべし

一會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料	
一頁	金二圓
半頁	金一圓
一行	金六錢五厘
總て前金とし割引なし	

本誌定價壹部金貳拾錢　毎月一回發行

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中德三郎

東京牛込區矢來町三番地
印刷者　吉岡嚴八

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場

(明治二十六年四月四日遞信省認可)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN